慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	巻頭言
Sub Title	
Author	重野, 寛(Shigeno, Hiroshi)
Publisher	慶應義塾大学デジタルメディア・コンテンツ統合研究センター
Publication year	2020
Jtitle	慶應義塾大学DMC紀要 (DMC review Keio University). Vol.7, No.1 (2020. 3) ,p.4- 5
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO32002001-00000007-0004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

巻頭言

重野 寛
慶應義塾大学 DMC 研究センター所長
理工学部教授

『慶應義塾大学 DMC 紀要』第 7 号をお届けいたします。本号には、2019 年秋の DMC 研究センターシンポジウム第 9 回「大学教育のミライ：オープンエデュケーションのその先へ」における講演やパネル・ディスカッションをはじめとして、この 1 年間の活動報告、所員の研究成果などが掲載されています。

慶應義塾大学は、2016 年に英国に本部をおくグローバルなソーシャルラーニングプラットフォームで ある FutureLearn のパートナーとなり、オンラインコースの開発と開講を行ってきました。現在までに 7 つのコースを開発、開講し、190 カ国から延べ 6 万人以上の登録を得ています。世界中から多くの学習者が慶應のオンラインコースを通して活発にコミュニケーションしながら学んでいます。また、既に国内の複数の大学が、様々なプラットフォームを使用して、グローバルなオープン・オンラインコース（MOOC; massive open online course）への取り組みをはじめていています。

これまで、DMC 研究センターは塾内外のご協力を得ながら、FutureLearn のおけるコース開発や開講に取り組んでまいりました。今回のシンポジウムは、その取り組みをまとまった形で皆様にご披露するはじめて機会となりました。

シンポジウムの前半では、オンライン教育やオープンエディケーションに携わってこられた森秀樹先生（東京工業大学教育革新センター）、藤本徹先生（東京大学大学院情報学環/大学総合教育研究センター）、佐々木孝浩先生（慶應義塾大学付属研究所斯道文庫）をお招きし、グローバル MOOC でのご経験を共有いただくとともに、オンライン教育、オープンエデュケーションから見えてくる新しい大学教育のあり方についてご議論をいただきました。後半では、「オンラインで世界に開く日本の文化財」をテーマとして、松田隆美先生（慶應義塾ミュージアム・コモンズ/慶應義塾大学文学部)、本間友先生（慶應義塾ミュージアム・コモンズ/慶應義塾大学アート・センター)、カラーヌワット・タリン（ROIS-DS 人文学オープンデータ共同利用センター/国立情報学研究所）にご登壇をいただき、教育の視点から文化財を捉え、国内に存在する多様な文化財を世界に発信・共有していくことについてご議論をいただきました。

今回のシンポジウムでは、DMC 研究センターの本拠地を離れての開催、会場でのグラフィカル・レコーディング、慶應義塾大学 FutureLearn チームによるラーニングデザインワークショップの開催など、数々の新しい試みも行われました。

『DMC 紀要』第7号を通じ、より多くの研究者、関係者の皆様へ当センターの活動をお伝えできましたら幸いです。

さて、この巻頭言を執筆している 2020 年 4 月の時点では、世界的に新型コロナウイルス感染症の被害が拡大し、その対策のために世の中の様相が激変しています。人の移動が大きく制限され、企業等の活動の大部分がテレワーク等のオンラインでの活動に移行しています。義塾を含めた多くの大学においても、急速にかつ全面的にオンライン講義への移行を迫られています。まずは人命や健康が最優先です。その上で、この難局がしばらく続くことを覚悟し、したがって、積極的に対応を図っていくことも重要です。大学においても、いかに研究と教育を維持するかということを考え、失敗を恐れずに、新しい取り組みや方法を実践に移していくことが必要です。DMC 研究センターとしても、これまでの経験や知見を生かし、研究と教育の支援に貢献していく所存です。